

2020年度
第4回 理事会議事録

2021年 2月 18日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2020年度 第4回理事会議事録

1. 日 時 2021年 2月 18日 (木) 14:00～16:45
2. 場 所 本議場= 全国鐵構工業協会 第1会議室
(本議場に出席しない理事及び監事はオンラインにて参加)
3. 構 成 員 16名
4. 出席構成員 15名 (別紙 出席者名簿参照)
5. 議 事 次 第
 - (1) 開会の辞
 - (2) 定足数確認報告 (定款第36条)
 - (3) 会長挨拶
 - (4) 議案書について補足説明
 - (5) 前回理事会議事録の確認
 - (6) 審議事項
第1号議案 2021年度 鉄骨技術研究開発助成対象案件承認の件
第2号議案 2021年度 事業計画(案)承認の件
 - (7) 報告事項
 - 1) 2021年度予算編成の前提・考え方について
 - 2) 委員会等報告
 - ①運営委員会
 - ②技術委員会
 - ③災害時のBCP策定WG
 - ④事業継承対策WG
 - ⑤日報デジタル化検討WG
 - ⑥リモート製品検査検討WG
 - ⑦ホームページ改造WG
 - ⑧採用ポスター作成WG
 - (8) その他の定例報告事項
 - 1) 構成員登録状況
 - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
 - 3) 主要会議日程
 - 4) 支部報告
 - (9) 閉会の辞

6. 議 事 要 旨

(1) 開会の辞

進行役の辰巳専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

辰巳専務理事より、理事総数 16 名のうち議場への出席者 7 名、オンラインでの出席者 8 名で出席者合計 15 名、欠席者は神崎理事 1 名であり、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされている旨、報告された。

(3) 会長挨拶

米森会長より「昨年来のコロナ禍が続く中、大雪や台風並みの強風や先日は大地震まで発生するなど、自然災害が絶えないが、皆様におかれては被災されないよう日頃の備えをお願いしたい。感染状況はやや改善傾向にあるようだがまだ気を緩めることはできず、我々三役も P C R 検査で陰性を確認してから上京している。オンライン会議は何かと不自由な点があり手間もかかるが、今後も当分続けなければならない状況ですので協力をお願いしたい。本日は、重要な審議事項もあるので、ご審議のほどよろしく願います。」との挨拶があった。

(4) 議案書について補足説明

議案書の「支部報告<p 51 以降>」に関して、昨今、一部で価格の下押し傾向がみられる中で、支部報告資料の「工場加工費」欄に記載された低めの価格が独り歩きして、価格に悪影響を与える懸念があるため、事前配布された議案書の当該欄を空欄にしてあること、また、各支部から報告された価格入りの原版は、議事の中で画面にて表示することが、辰巳専務理事より説明された。

(5) 前回理事会議事録の確認

辰巳専務理事が要点を読み上げ、確認、了承された。

(6) 審議事項

1) 第 1 号議案： 2021 年度 鉄骨技術研究開発助成対象案件承認の件

冒頭、本助成制度の概要が高野技術部長より説明され、引き続き、2021 年度 鉄骨技術研究開発助成の応募案件(1 件)〔東京鉄構工業協同組合が応募した「鉄骨溶接部の U T 検査法と P A 検査法の比較検証を行い、P A 検査法の活用法について検討する」〕の概要、2 月 9 日に開催された選考委員会における主な意見、及び審議の結果、助成対象として採択されたことが、議案書[理 20-4-議 1]<資料はモニター上で表示> にそって、高野技術部長より報告され、異議なく承認された。

2) 第 2 号議案： 2021 年度 事業計画(案)承認の件

2021 年度事業計画(案)に関し、基本方針について辰巳専務理事より、個別事業について平井総務部長及び高野技術部長より、各々議案書[理 20-4-議 2] (p4-15) にそって説明された。本議案に関する意見・質問等はなく、原案どおり承認された。

(7) 報告事項

1) 2021 年度予算編成の前提・考え方について

2021 年度予算編成作業に先立ち、予算編成方針(前提)及び経常収益について辰巳専務理事より、経常費用について平井総務部長より、議案書[理 20-4-報 1](p17-18)にそって説明された。これに関する意見・質問等はなく、原案どおり了承され、これにそって予算編成を行うことが確認された。

2) 委員会等報告

①運営委員会

1 月 21 日にオンラインで開催された運営委員会の概要が、大竹委員長及び平井総務部長より議案書[理 20-4-報 2①]にそって報告された。

報告の概要は以下のとおり。

○『構成員の業績等実態調査』の集計結果概要

- ・粗利益、営業利益とも前回調査時より悪化している。その傾向は、下位グレードでより顕著である。地域により差はあるが、全地域で悪化している。
- ・女性社員比率は前回調査からの変化はほとんど見られない。

○原価管理の確実な実行に向けた緊急施策に関する各県組合における確認・実施状況

- ・昨年 10 月に実施した「原価管理実施状況調査結果」をふまえた全構協から各県組合への緊急施策協力依頼に関する各県組合の状況は、議案書 p25 のとおりである。
- ・全構協に対して「講師派遣要請」「教材紹介依頼」等の要望が、一部の組合から出ているが、全構協からは、各県または支部での自助努力で対応するよう促している。
- ・「全構協からの調査票で、『講習会開催や個別対応の実施に関する全構協への要望・意見』を求められたので、『講師の派遣をお願いしたい』旨回答したら、全構協からは『自助努力を促された』という不満の声が聞かれた。運営委員会として、調査票の設問の仕方が反省点となった。

②技術委員会

1 月 27 日にオンラインで開催された技術委員会の概要に関し、「溶接ヒューム規制強化への対応」、「コラム半自動溶接の施工実験」を中心に、井原委員長及び高野技術部長より議案書[理 20-4-報 2②]にそって報告された

報告の概要は以下のとおり。

○溶接ヒューム規制強化への対応について

- ・本件に関する情報を構成員が容易に入手できるよう、現時点で明らかになっている情報を全構協ホームページに掲載した。
- ・フィットテストの開始時期が、法律改正により当初の 2022 年 4 月 1 日から 2023 年 4 月 1 日に変更になった。

○コラム半自動溶接の施工実験について

- ・神戸大学と兵庫県組合が実施している実験は計画どおり順調に進んでいる。

③災害時のBCP策定WG

2月1日にオンラインで開催された災害時のBCP策定WGの概要に関し、議案書[理20-4-報2③]にそって大竹リーダーより報告された。

報告の概要は以下のとおり。

- ・メンバー各社の、BCPの取組み実態を確認したところ、ほとんどが必要性を感じつつも未着手の状態であった。
- ・構成員各社の規模、社員数、業態は多種多様であり、BCPの内容も一様ではないため、中小企業庁がホームページ上で公開している「中小企業BCP策定運用指針」を参考にして、汎用性のあるモデルケースを作成して配布することを考えている。
- ・コロナ禍を体験し、災害時のものだけでなく感染症に対応したBCPの必要性も感じている。

④事業継承対策WG

12月25日にオンラインで開催された事業継承対策WGの概要に関し、議案書[理20-4-報2④]にそって出雲リーダー及び平井総務部長より報告された。報告の概要は以下のとおり。

- ・冒頭、事業継承対策WG設置経緯を説明したのちに、今後の活動の方向性について協議した。
- ・協議の中で「どれくらいの会員が事業継承で悩んでいるのか、何が悩みなのかを知ることが大切である」「どれ位の会員が、どんな内容で悩んでいるのか、そこが分かった方が今後の議論を進めやすい。」「『事業継承への関心の度合い』、『具体的に困っている内容』、『事業継承問題の切迫度』等について把握しておくことが必要。」などの意見が出された。
- ・これらの意見をふまえ、「事業継承問題」に関するアンケート調査を実施することとした。

⑤日報デジタル化検討WG

2月5日に開催された日報デジタル化検討WGの概要が、議案書[理20-4-報2⑤]にそって井原リーダー及び千田技術部部長より報告された。

報告の概要は以下のとおり。

- ・メンバー各社の日報は、手書きで作成したものを事務員がパソコンに入力したうえで工場管理、原価管理等に活用しており、デジタル化した業務のイメージが明確でない。
- ・既に日報のデジタル化に取り組んでいる構成員から、デジタル化の方法、活用方法等についてヒアリングし、それを参考にして今後の検討の方向を考えたい。については、日報デジタル化の実施事例について構成員に対するアンケート調

査を行うこととした。

⑥リモート製品検査検討WG

1月21日及び2月9日に開催されたリモート製品検査検討WGの概要が議案書〔理20-4-報2⑥〕にそって佐藤リーダーより報告された。

報告の概要は以下のとおり。

- ・本WG設立の経緯をメンバーに説明した後、i) リモート製品検査の実例把握及び課題 ii) リモート製品検査の基本パターン iii) 成果物イメージ iv) 関連多団体との連携 等について議論した。
- ・メンバーでリモート製品検査の実施経験があるのは一名のみであり、検査実施主体の要求事項、留意点等の情報が乏しいため、検討に先立ち、リモート検査の実施事例をより多く集めたうえでそれらを参考にしながら今後の検討を進めることとし、早急にアンケート調査を実施することとした。

⑦ホームページ改造WG

2月12日に開催されたホームページ改造WGの概要が議案書〔理20-4-報2⑦〕にそって渡辺リーダーより報告された。

報告の概要は以下のとおり。

- ・内部向け、外部向け双方の情報・機能を充実した内容にする。
- ・昨年度、品質管理委員会がまとめた「認定工場紹介情報に、工場規模、加工能力等の情報を付加する案」も本WGが引き継いで検討する。
- ・今後、他団体のホームページも参考にして、掲載する項目、内容、デザインを検討する。

⑧採用ポスター作成WG

昨年12月15日から本年1月29日まで3回にわたりWGを開催して取りまとめた採用ポスター作成案に関し、「作成基本方針(訴求対象、デザインコンセプト、配布先・配布主体等)」、「ポスター作製に関する具体的な検討状況(依頼先候補と提案内容と概算見積額、WGの推薦案)」及び「PR効果を高めるための提案」が、議案書〔理20-4-報2⑧〕及び別冊にそって寺田リーダーより報告された。

上記報告に対して以下の意見が出された。

- ・ヘルメットの顎紐の弛みなど安全上問題がある画像は避けるべきである。
- ・ポスターは、当業界の内容を紹介する情報提供の入り口の役を担うもので、ポスターからランディングサイトに誘導し、その中でアニメ動画『鉄骨ガールと工場見学』等の当協会保有の既成メディアも活用してこの業界の仕事の内容や特色等の詳細情報を紹介する という流れで採用活動に資する仕組みを作るのであれば、ポスターデザインの題材にも『鉄骨ガール』を活用するのが、連続性・一貫性もありPR効果が上がると思う。
- ・今の若者は、文字や文章ではなく画像等のイメージで物事を捉えるので、できるだけ多くの人をランディングサイトに誘導することができる、直感的に

関心を持たせることができるポスターが必要。

・瑞穂印刷の案は、QRコードを強調したデザインであり、好ましいと思う。

以上の意見をふまえて協議の結果、WGにおいて『鉄骨ガール』を題材としたデザインで再検討することとした。

また、作成基本方針(訴求対象、デザインコンセプト、印刷枚数、配布先・配布主体等)、「PR効果を高めるための提案(リーフレット作成、データ版作成、ランディングサイトの検討)」については、了承された。

(8) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

2月12日時点の構成員数は2,210社で、前回報告時より5社減少したこと等が、議案書[理 20-4-他 1] (p42-46)により事務局から報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

2020年12月の鉄骨推計需要は34.9万トン(前年同月比14.4%減)であることが、議案書[理 20-4-他 2] (p47)により事務局から報告された。

3) 主要会議日程

今後の主要会議等(2020年度及び2021年度)について、議案書[理 20-4-他 3] (p49-50)により確認された。

4月9日の「全国事務局長会議」について、東京において対面式で実開催するが、実出席は任意とし、実出席しない方に対しては会場の様子をネット配信することまた、懇親会は行わないことが事務局から説明された。

4) 支部報告

〔北海道〕

- ・1月12日に三役会・役員会を開催した。
- ・手持ち工事量は、Hグレードは2～7ヶ月、Mは1～3ヶ月、R以下は1～5ヶ月。
- ・稼働率は、Hグレードは90%、Mは75～100%、R以下は75～100%。
- ・見積件数は、全道通じて少ない。
- ・価格も低下基調でゼネコンの指値も厳しくなっている。
- ・この先の、仕事量減少と鋼材価格の上昇を心配する声が多い。

〔東北〕

- ・2月13日の夜発生した大地震の被災状況は、目下調査中だが、現在のところ備品の落下等軽微なもので、業務に影響が生じるような被害の報告はない。
- ・2月9日に支部会を対面式で開催した。その際、例年行っている東北地整との意見交換会を実施し、コロナ禍における当業界の現状と課題・問題点等を説明した。また、ファブの社員の感染により鉄骨製作に工程遅延が生じ、それがゼネコンの建て方遅延の原因になった場合でも、ファブは賠償責任を負うことはない旨の説明があった。
- ・手持ち工事量、工場稼働率、新規見積もり物件数、いずれも低下しているが、

大型物件の計画もあることから先々の需要回復に期待しつつ、組合員間で仕事の融通をしながら凌いでいる。

〔関東〕

- ・12月8日に工程管理・見積条件の講習会を、17日には関東支部会を開催した。
- ・手持ち工事量、稼働率ともに2極化しており、3～4倍の開きが出ている県もある。見積もり物件数も少なく、特に地場物件が著減している。しかし、一方で、増加に転じたという声も一部で聞かれる。
- ・価格の下落と鋼材価格の上昇は、各県共通の懸念事項である。

〔北陸〕

- ・石川県では、12月18日に建設従事者安全健康確保会議を、1月21日に溶接ヒューム規制等に関する説明会を開催した。
- ・手持ち工事量、稼働率ともに低下傾向で、また、ファブにより大きなバラツキがある。物件数が減っているうえに、発注済物件の延期・中断が追討ちをかけている。特に、地元物件が少なく競争が激化している。
- ・一つの物件に複数のゼネコンが関与し、多数のファブに引合いを出す傾向がみられ、実の物件数は、見かけ以上に少ないのではないかとの見方もある。
- ・春～秋には発注されそうな物件はあるが、規模の大きなものであることから、Mグレード以下は厳しい状況が続くかもしれない。
- ・組合員間で仕事の融通をしあって凌いでいきたいと考えている。

〔中部〕

- ・各県とも厳しい状況ながら理事会・役員会を開催している。しかし、愛知、岐阜県が緊急事態宣言の対象県となったため支部会を開催できず、宣言が解除されれば速やかに開催したいと考えている。
- ・手持ち工事量は、Hグレードは数か月分確保しているが、M、R、Jは例年より大幅に減少しており厳しい状況になっている。
- ・稼働率は、ファブによるバラツキが大きくなっている。
- ・見積物件数は減少、価格も低下傾向の一方で鋼材価格は上昇しており、我慢の年になりそうであるが、横のつながりを強化して乗り越えていきたいと考えている。

〔近畿〕

- ・コロナ禍のため各県とも十分な活動ができていない。その中でも、12月9日に工程管理表、見積条件書の講習会を開催した。ただし、県を跨ぐ移動が許されていない和歌山県は出席できなかった。12月に予定していた商社との交流会も中止した。
- ・2月26日には支部長、副支部長、事務局のみ集まって、2020年度決算見通し、2021年度事業計画及び予算について協議し、3月25日に開催予定の支部会に諮る準備を行う予定である。
- ・手持ち工事量、稼働率は、他支部と同様、全体に下落傾向で、かつファブによるバラツキが大きくなっている。見積物件数も減少している。
- ・価格も低下傾向で、ゼネコンの指値も厳しくなっており、対応に腐心している。

- ・コロナ禍の先行きが不透明であるが、緊急事態宣言が解除されれば早期に集まる機会を設けて情報交換を密に行うことで価格維持に努めたいと考えている。

〔中国〕

- ・12月には各県とも理事会を開催することができた。
- ・3月5日には支部会を開催する予定である。
- ・手持工事量は、Hグレードは概ね確保できているが月により山谷はあるようである。M、R、Jはかなり厳しい状況にあるが、相互に支援しあって凌いでいる。
- ・稼働率も低下傾向、価格も同様だが無理な価格で受注しないよう頑張っている。
- ・4月以降の発注は徐々に増加する気配があり、期待している。

〔四国〕

- ・徳島県は新型コロナウイルスの感染者が少なく、三役会、理事会、新年会等の行事を開催できたが、他の三県は十分な活動ができていない。支部会も開催できなかった。
- ・手持工事量、新規引合物件も少ない中で、鋼材価格の上昇、ゼネコン指値の低下など厳しい状況となっており、価格維持に苦慮している。
- ・相互に支援しあって何とか凌いで、ピンチを乗り越えたいと考えている。

〔九国〕（神崎理事が欠席のため、代わりに永井副会長より報告された）

- ・12月24日に支部会をオンラインで開催した。次回は2月24日に開催予定である。各県事務局の連絡会もWebを活用して行っている。
- ・物件の山積み状況は、全体的に低く、特に中小規模のファブは厳しい状況に置かれている。
- ・計画物件の発注時期が全体的に後ろ倒しになっていることに加え、外国人観光客で潤っていた宿泊業等の観光関連物件が棚上げまたは中止に追い込まれてしまい、消えてしまった計画も少なくない。
- ・倉庫等物流関係物件は好調を維持しているが、ゼネコンの価格競争激化のしわ寄せで厳しい指値がファブに向けられている。
- ・大和ハウス工業が沖縄で建設予定の大型物流施設について、沖縄県の組合で対応する方向で話が進められているので、ご協力いただきたい。

(9) 閉会の辞

以上をもって、審議事項、報告事項、その他の定例報告事項等、予定された全ての事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

出席者名簿

<u>役 職</u>	<u>氏 名</u>	<u>出 席 形 態</u>
会 長	米 森 昭 夫	議 場
副 会 長	永 井 毅	議 場
〃	大 島 嗣 雄	議 場
〃	山 本 泰 徳	議 場
専務理事	辰 巳 功	議 場
常務理事	大 橋 利 勝	議 場
理 事	佐 藤 正 記	オンライン
〃	渡 辺 勝	オンライン
〃	大 竹 良 明	オンライン
〃	寺 田 健 信	オンライン
〃	多和田 桂 太郎	オンライン
〃	出 雲 津 芳	オンライン
〃	福 田 秀 章	オンライン
〃	井 原 常 裕	オンライン
〃	齊 藤 眞	議 場
監 事	村 上 眞 樹	オンライン
〃	野 田 博 文	オンライン
〃	高 橋 伸 和	オンライン

理事総数	16名	うち出席者	15名	〔欠席： 神崎 隆一〕
監事総数	3名	うち出席者	3名	